

（午前10時30分 再開）

○議長（土井裕美子君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番8、14番 小西さん。

〔14番（小西政宏君）登壇〕

○14番（小西政宏君）そうしたら、本日2番目、やらせていただきたいと思います。

昨日から、今日もそうですけど、様々先輩議員から提案がある中で、一つ、1個思うことというのは、リスクを負ってたくさん挑戦をしていかなあかんというふうなことはすごく感じられました。

こういったコロナ禍の中で閉塞感が非常にある中で、一つうれしいことが私あったんですけども、10月に、コロナ禍で様々なイベント等々がなくなっていく中で、例年でしたら10月というたら、橋本市でいうたら、だんじり祭りとかがあるわけですけども、橋本市の防災無線を使って、だんじりの音色、音が、太鼓の音が流れていました。

コロナ禍でできないことがあるんですけども、その中で、一方、様々意見もあると思います。けれども、何かそういった季節感を感じてもらおうといいますか、そんな取組み、挑戦をされていたのを、これ僕10月に聞きましたので、あれは非常に私もうれしかったですし、こういったことをどんどん、批判を恐れずといいますか、リスクを負ってやっていってくれる行政には非常に感謝を伝えたいなというふうに私は思いました。

そういった、ちょっとした太鼓ということかもしれないけども、それで何か非常に小さな幸せに寄り添っていってくれているなど、そういうことを感じさせていただ

きましたので、今後もそういったことを引き続きやっていきたいなという思いと、感謝の思いを、これは市長なのか危機管理監か、ちょっと僕よう分かりませんが、お伝えして、一般質問のほうに入っていきたいなと思います。

それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

今回は、1項目です。小・中学校の制服、いわゆるズボン導入についてお伺いいたします。

現在、市内の小・中学校の制服は学校ごとで様々であるが、各学校において男女別でも別々の制服を指定している。

近年、LGBT配慮の観点より、男女として制服を別にするのではなく、それこそ女子生徒がズボン、いわゆるスラックスを選択できるといった様々な選択肢を準備している学校が増加している。

私の思いは、思い切り気にせず走って遊んだり、また、防寒対策においても、スカートだけではなくズボン、いわゆるスラックスの導入などが必要だと考えますが、教育委員会の見解をお伺いいたします。よろしくお伺いいたします。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さんの質問、小・中学校の制服、ズボン導入に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（小林俊治君）登壇〕

○教育長（小林俊治君）小・中学校の制服、ズボン導入についてお答えします。

小・中学校の制服の現状について、小学校で男女共用のブレザーのみの制服を導入している学校が1校、男女別の制服を導入し

ている学校が5校、私服の学校が8校となっています。中学校については、5校全てが男女別の制服を導入しています。

制服の自由選択制については、全国的に、性別に関係なく自由に選べる制服を導入する学校が増えています。

議員おただしのおり、このことについては、LGBTをはじめとする性的少数者に配慮すると同時に、スカートではなくスラックスを履くことは、冬の寒さ対策になることや自転車通学や清掃活動等において動きやすく、大変機能的でもあります。

この件については、以前より議員からお話しいただいております、教育委員会としても同様の見解でありますので、改めて制服の在り方について議論する必要があると考えています。

現在、県内や他府県の取組状況を調査するとともに、校長会、PTAや学校運営協議会と連携し、制服の自由選択制について検討を進めていきたいと考えています。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん、再質問ありますか。

14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）答弁ありがとうございます。

今、答弁いただきましたように、前々から教育委員会へ直接お伺いさせていただく中で、こういった制服のことについて一度検討というか、こうしたほうがいいんじゃないかというのは直接お伝えをしまりました。

今回、一般質問という機会でも、より確認といたしますか、進めていただけるように今回させていただきますわけです。

制服ということなので、1個画像だけ出していただいてもいいですか。もうイメージだけの話です。見ていただいたら分かる

と思います。これ皆さん女性ですけども、皆さんズボン、スラックスを履いている方もいます。

というふうに、今、答弁でもあったように、スカートだけやったら冬場寒かったりとか、また、自転車通学の方で非常に動きにくかったりとか、あと、僕も言わせていただいたように、運動場で遊ぶときにスカートやったら遊びにくいとか、様々そんな現状が、実情があると思います。なので、制服のイメージとしてはこんな感じだよということなので、もう画像は結構です。

再質問をしていきたいんですけど、まず、大切にしていきたいところというか、前提なんですけども、全国的にもこういったズボン、スラックスはどんどん導入されています。様々マスコミ等々でも、LGBTに配慮してこれを導入するんだということがあると思うんですけど、本来大切にせないかんことは、LGBTに配慮してこういったことをしていくのではなくて、LGBTに配慮しなくてもいい制服が本来あるのが本来あるべき姿というふうに、私はそういうふうに思っています。

ですから、今回、私の論点としては、もう当たり前のことです。皆さん私服を着ていたら、もちろんズボンも履くしスカートも履くし、こういった選択肢というのは自由なわけですから、当たりの観点において、こういった制服、日常、毎日着るものです。

そういったところにおいても、この当たり前を学校現場に導入していきける、そんな一つであってほしいというふうに、私はそういうふうに観点は思っておるわけですけども、まず、一点、そういったところを教育委員会はどういうふうに認識をされているのか、ご見解をお伺いしたいと思います。

○議長（土井裕美子君）教育長。

○教育長（小林俊治君）お答えします。

議員おただしのとおり、私もLGBTに配慮するのではなくて、LGBTを配慮しなくてもいいような社会や環境をつくっていくことが非常に大事だと思っています。

議員からお話をいただいた前後にも、新聞記事を読ませていただきました。随分、女子のスラックス、いわゆる制服の選択制というのが進んでいますという記事も読んでいて、議員からのお話もあって、私自身も、女子生徒、また、児童が活動しやすい、自転車やそれから清掃のときに活動しやすい、それから、いろんな部分で、特に、女子はスカートを履かなくてはいけないというふうなことは、概念として必要ではないのではないかと。特に、女性になるとスラックスを履かれる女性は多いと私も思います。

だから、今まで当たり前のことを受け止めていたことを、これはやっぱり違うぞというのを私も思っています。

そういう意味で言いますと、議員おただしのとおり、私もそのように考えております。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。

本当に、意見が一致するといいますか、向いている方向が一緒なのかなというふうに思います。

先ほど一番はじめに答弁いただいたところですが、今後、制服の自由選択制について検討を進めていきたいと考えていますということですが、ここはもう前向きに検討を進めていくというふうに捉えさせていただいてもよろしいでしょうか。

○議長（土井裕美子君）教育長。

○教育長（小林俊治君）具体的にはまたご質問いただいたらと思うんですけども、小学校、それから中学校ともに前向きに進めて

いきたいと思っています。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。

そうしたら、ちょっと掘り下げて聞いていきたいなと思います。まずは小学校についてお伺いしていきたいと思います。

小学校の制服というのはもう様々です。もちろん私服のところもあれば、上だけブレザーを着ているところもあると思います。ですから、ここも固定概念の話だと思うんですけど、これってもちろん学校現場で、PTAの方であるとか運営協議会の方であるとか、現場でももちろん選択はしていただいたらいいと思うんですけど、スカートをズボンにするという、これも固定概念であってはいかんなと思っていて、それこそスカートでもいいズボンでもいいし、それこそブレザー上だけでもいいというふうな、こういった選択肢もあると思うんです。

こういったところを、また現場へ、議論していただくときに、まず一旦、様々選択肢があるよということは、教育委員会から伝えていただくと上で、現場で議論していただきたいなというふうに思うんですけども、その点どういうふうな見解か、お伺いしたいと思います。

○議長（土井裕美子君）教育長。

○教育長（小林俊治君）まず、制服ってどういう意義があるのかというのを根本で考えてみたいと思うんですけども、学校の帰属意識であるとか、それから、学校における連帯感、それから経済性、これはもう華美な服装の経済性があると思います。それから校外活動のときの自分とこの学校の子もかどうかという見分けやすいこと、それから、学校へ入ったときのオンとオフの切替え、いわゆる学校ではオンですよというふ

うな切替えの一つとして制服はあるとは思っています。

ただ、先ほどからご意見いただいているとおり、選択制にする必要はあると、もうそういう時代になってきている。

私も学校訪問を随分させていただいています。小学校の低学年の児童は結構スカートが多いです。でも、高学年になると、かなりの割合でズボンというかスラックスを履いています。そういうのはやっぱり子どもたちが、そういうことを思いがだんだんだんだん発達年齢に応じてそうなるようになっていくんだらうなど。それに應える必要はあるだらうなど。

それを考えていくのは、学校であり、保護者の方々であり、学校運営協議会の方々であり、考えていっていただいて、この意見については、ほとんどの方がというか、了解を頂けることだと私は思っていますので、前向きにというか具体的に進めていきたいと、このように思っています。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。

そうしたら、次に、中学校の制服についてお伺いしたいと思います。

といいますのは、ちょっと中学校のほうの様々ハードルも出てくるかなというふうに思っていたりもするんですけども、中学校の制服をそういうふうに導入していくにあたって、課題はどういうふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（土井裕美子君）教育長。

○教育長（小林俊治君）日本の中学校のほとんどというのは男性が学生服で女子生徒がセーラー服と、これはもう明治時代に日本の教育がヨーロッパ、特にドイツの教育から取って、いわゆる海軍というんですか、その制服から持ってきたものだと思っていま

す。それがもう随分長い間定着しているのが事実です。

私たち考えるのは、やっぱり選択制を設ける必要はあるやろうなと思います。選択制でいいますと、抜本的な改革というか抜本的な変えも必要ですし、中間の位置にそういうブレザーとスラックスというのも大丈夫かなと。

これはあくまでもLGBTに配慮したのではなくて、機能性で配慮してそういうことを取組みを進めていく必要があるだらうと思います。

その取組の過程の中で、発達段階ですので、中学校はやっぱり生徒会の子どもたちが中心になって自分たちの生活を決めていく、これが重要だらうなど。そこに、学校、教職員、保護者、学校運営協議会の方々が一緒になって協議していくというふうなことが必要だらうなと思っています。

それで、そのことについては前向きに進めていきたいと思っています。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。

ですから、ちょっと中学校においては、様々背景というか歴史もある中で、抜本的にやっていかなあかんとところがあるというところも、今、答弁で確認をさせていただきました。

その上で前向きにということ再度言っただきましたので、もうこれは期待して待っていたいなと、現場の議論が早く進むことを期待したいなと思うんですが、最後にお聞きしておきたいなと思うのは、教育長の思いとしては、いつ頃までにこれはやりたいなと、そういう思いがあれば、そこをちょっと最後確認しておきたいなと思います。お願いします。

○議長（土井裕美子君）教育長。

○教育長（小林俊治君）議員からお話があって、11月の校長会でもうお話を進めさせていただいています。既に中学校で学校運営協議会で下ろしていただいて協議いただいた学校もございます。

その中では、やはりそういう時代やろうなど。時代というか、そういうことやろうなど。今まで当たり前と思っただけのことが、やっぱ当たり前と違うことが分かる、これは正しい意見だという、そういう学校運営協議会の方々の意見があったということも報告を受けています。

ただ、時間的に、じゃ、来年できるかというと、これはかなり困難だろうなど。概ねという表現で了解を頂きたいと思うんですけども、2年ないし3年、3年というめどを立てたいと思っていますので、ご理解よろしくをお願いします。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。

本当に、今までがある意味、逆に、学ランとかが当たり前と言われてきた中を変えていくわけですから、逆に2年ないし3年でやっていただけるというのは非常に力強く感じましたので、今後とも引き続きお願いしたいと思います。

ですから、あともう一つ申し伝えるとすれば、どれを選んでも大丈夫という子どもたちの環境づくり、こういったところ、当たりのことですが、そういった環境も今後一緒になって考えていってもらいたいと思うので、そういったところも大切にしていきながら、これ導入に向けてやっていただきたいと思います。最後にそれをお願いをさせていただきます。

そうしたら、これで一般質問を終わります。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さんの一般質問は終わりました。